

あさかのファシリティマネジメントを考える

経常収支比率から考える

経常収支比率とは、財政構造の弾力性を判断するための比率で、人件費や扶助費(社会福祉等のために支出されるお金)などの経常的な経費に、市税などの経常一般財源がどの程度充当されているかをみる指標です。経常収支比率が高いと、経常的な経費にお金がかかってしまい、新たな市民サービスの提供などに使えるお金が少ないということになります。

平成16(2004)年度

令和6(2024)年度

朝霞市の経常収支比率

85.3%

97.6%

新たな事業に充てられる割合が少なくなっています。

災害等の突発的な支出に備えたお金を維持しながら、今後を見据えた投資的なお金の確保をするためには、なにかを節約しないといけないですね。なにを節約したほうがいいでしょうか。少子高齢化社会の中で社会保障費(扶助費に相当)を削減することは非常に難しいです。

それでは、どの支出を削減するか・・・という考えになると、ひとつの手段として、「**公共施設の最適化**」*を考える必要があります。

※一言でいうと、公共施設の質や量を見直し「今の時代やこれからのまちの身の丈に合わせて、一番いいバランスに整理・整頓すること」です。

つまり「市民にとっても、市の財政にとっても一番効率よく、便利な形にリニューアルしよう！」という取組を進めることです。